ブロッコリーの病害虫

諏訪農業改良普及センター 2019,8作成版

細菌による病害

細菌の病害（共通）

◆軟腐病、黒斑細菌病、黒腐病

◆葉及び花らいに発生

◆抗生剤・無機銅剤の有効活用

◆花らいでの発生は、黒すす病との併発

軟腐病による花蕾腐敗病

軟腐病による花蕾腐敗病

軟腐病による花蕾腐敗病

軟腐病

軟腐病・花蕾腐敗病

◆軟腐病に起因する花蕾腐敗病は腐臭を伴う
◆７月上旬から被害がみられる
◆定植から１カ月が重要防除時期
◆雨・風で被害が拡大
◆黒すす病と共通する特効薬はない

黒斑細菌病

黒斑細菌病

黒斑細菌病

◆秋口中心、冷夏では７月からみられることも
◆定植から１カ月が重要防除時期
◆花らいにも発生するが、腐臭は伴わない
◆坪枯れ状に発生し、風雨で急速拡大する

黑腐病

黑腐病

黒腐病

◆秋口を中心に春にも発生がみられる

◆花らいにも発生するが、腐臭は伴わない

◆軟腐病に比べやや低温期で発生する

◆防除は、粒剤を利用した場合でも定植３週間以降、散布剤を併用する

カビによる病害

カビの病害（共通）

◆地上部の病害では、べと病専用薬剤がある

◆花らい被害は着らい前から防除を徹底する

※根こぶ病はカビの病気ではありませんが、こちらに掲載しています

黒すす病

黒すす病

黒すす病

黒すす病

黒すす病

◆７月中旬から秋口まで継続発生する

◆花らい被害は着らい前から防除を徹底する

◆花らいでの発生は、細菌による花蕾腐敗病と併発する（判別困難）

株腐病

株腐病

株腐病

株腐病

◆ごく春早い作型で発生がみられる
◆定植直後の苗が散発的に枯死する
◆地際に粗い菌糸がみられることがある

べと病

べと病

べと病

◆低温期に発生が多い

◆育苗時期の防除を徹底する

◆生育初期に発生すると、黒斑細菌病など他の病害を誘発することがある（判別困難）

根こぶ病

根こぶ病

根こぶ病

◆盛夏期に株が萎凋する
◆早期感染では地際直下の主根にも被害がおよぶ
◆薬剤散布のみでは防除が困難
◆輪作を中心に、おとり作物、pH矯正を取り入れる
◆拡散防止のためロータリーの土を丁寧に落とす

虫害

害虫（共通）

◆チョウ目害虫では、連用による薬剤の効果低下がみられるので、最新の情報を入手すると伴に、ＩＲＡＣコードを活用し、ローテーション防除を行う

ダイコンアブラムシ

モモアカアブラムシ

アブラムシ類

◆春と秋の作で発生が多い

◆モモアカアブラムシはほ場周辺の雑草管理を徹底する

◆ダイコンアブラムシはコロニーが大きくなるので早期に防除する

ネキリムシ類

ネキリムシ類

◆幼虫は、日中土中に潜み夜間に加害する
◆ほ場周辺の雑草管理を徹底する
◆放棄地の再作付けで、多発することがある
◆驚くと円くなる

コナガ

コナガ

コナガ

コナガ

コナガ

コナガ

コナガ

ヨナガ

◆５、６月は25日程度で成虫になる

◆若齢幼虫は頭部が黒く乳白色

◆よく動き驚くと円くなる

◆定植直後に多発すると芯が食害され、被害が甚大となる

ウワバ類

ウワバ類

ウワバ類

ウワバ類

ウワバ類

ウワバ類

◆卵は１卵ずつ産卵

◆シーズンをとおして発生がみられる

◆主に外葉の葉裏に生息する

◆蛹になるため花らいに潜ることがあり、問題となる

ヨトウガ

ヨトウガ

ヨトウガ

ヨトウガ

ヨトウガ

◆卵は塊で産卵（無毛）
◆食害の特徴から本虫を推定できる
◆春と秋に被害が集中する
◆秋に発生した幼虫が地中で蛹化し、越冬する

ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウ

◆卵は塊で産卵（有毛）

◆管内にはほぼオスのみ飛来する

◆西日本で多発するとメスの飛来もあるが、管内の発生は稀である（発生すると防除困難）

◆管内では越冬できない

キスジノミハムシ

キスジノミハムシ

キスジノミハムシ

- ◆畔際から被害が拡大する
- ◆盛夏期に被害が多発する
- ◆食害の特徴から本虫を推定できる

ハモグリバエ類

ハモグリバエ類ナモグリバエ

ハモグリバエ類リリオミザ属

ハモグリバエ類

◆幼虫が葉に潜り食害する

◆食害・産卵痕の特徴から本虫を推定できる

◆今のところ外葉のみの被害で目立った実害はない

ネギアザミウマ

ネギアザミウマ

ネギアザミウマ

◆近年、被害が急増している

◆産雄型（侵入害虫）では、ピレスロイド剤の効果が低下した個体がある

◆今のところ外葉のみの被害で目立った実害はない

テンサイシストセンチュウ

テンサイシストセンチュウ

◆盛夏期に株が萎凋する

◆根部にメス成虫、シストが着生する

◆畑からの土の持ち出しに注意する

◆防除については、指導機関に最新情報を問い合わせる

ハダニ類

ナガメ

カブラハバチ

薬害・異常花らい

◆花らいや葉に小褐点や黄化
◆無機銅剤は高温条件で発生リスク上昇
◆無機銅剤は花らい形成期までの散布
◆無機銅剤はクレフノン加用

薬害

薬害

薬害

異常花らい

ブラウンビーズ/死花

バトニング/早期出らい

ホローステム/花茎空洞症

キャッツアイ

リーフィー

不整形花らい

◆本冊は、諏訪管内の指導者・生産者向け資料ですが、利用の範囲は県内までとしてください。

◆内容の充実を図るため、不定期に改訂を行います。諏訪農業改良普及センターのホームページにＰＤＦ版を掲載しますので、スマートフォン、タブレット端末にダウンロードしてご利用ください。

編集発行

諏訪農業改良普及センター

ホームページ　https://www.pref.nagano.lg.jp/suwa-aec/